通話録音システム

MemoRoku

取扱説明書（アプリ版）

Ver1.11

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

～ 目次 ～

第一章　録音の開始と停止 3
1.1　録音の開始（手動録音の場合） 3
1.2　録音の停止（手動録音の場合） 3
1.3　チェックポイント（頭だし）シグナルの記録 4
1.4　メモの記録と録音ファイル確定 6
1.5　自動録音 7
第二章　管理ツール使用方法（録音再生方法） 10
2.1　管理ツールの起動から再生と終了 10
2.1.1 起動 10
2.1.2　再生操作 12
2.1.3　ソート 13
2.1.4　一覧表出力 14
2.1.5　通話メモ記録 15
2.1.6　終了 16
2.2　クライアントでの再生方法 17
2.2.1 起動 17
第三章　アプリケーションの起動と終了 18
3.1　起動 18
3.2　終了 18
3.3　備考 18
第四章　録音ファイルのメール送信 19
4.1　メール送信方法 19
4.2　パスワードをかける方法 20
第五章　基本動作設定 22

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

第一章　録音の開始と停止

1.1　録音の開始（手動録音の場合）

（１）
録音の開始は、Alt+F9 キーを押下します。
※標準設定の場合です。

《停止状態》

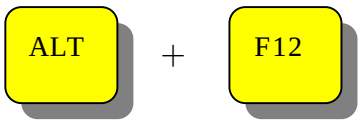
《録音開始状態》

（２）
録音が開始しますと、左の図のようにアイコンが録音モードになります。

※レベルメータが動かない場合は、録音が正しくできていません。音量が適切か、アダプターが抜けていないかをチェックする必要があります。

※自動録音の場合は、録音開始条件が揃ったタイミングで（２）の表示になります。
※レベルメータを表示したい場合は設定画面にて「アイコンのみ表示」チェックを外してください。

1.2　録音の停止（手動録音の場合）



（１）
録音の停止は、Alt+F12 キーを押下します。
※標準設定の場合です。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

（２）
録音が停止しますと、左の図のようにメモ記入画面が表示されます。

※メモ記入画面が表示されない場合は、自動登録モードになっています。

1.3　チェックポイント（頭だし）シグナルの記録

チェックポイントシグナルは、再生するときの目印として録音中に記録することができます。
聞き出したいポイントを頭だししたい場合に活用します。（音質＝NORMAL のみ利用可能です。）

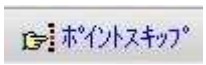
F10

録音中に F10 キーを押下することで、シグナル１を記録します。
※標準設定の場合。

F11

録音中に F11 キーを押下することで、シグナル２を記録します。
※標準設定の場合。

チェックポイントが入っている録音ファイルを再生するときは、青もしくは赤の▲マークが表示されます。ここがチェックポイントを記録したマークとなります。



［ポイントスキップ］ボタンにて、頭だしすることができます。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

【補足】
各キー割り当てを変更する場合は、「メモ録 ini ファイル説明書」を参照ください。

録音開始：RECKEY **セクションの変更**
録音停止：STOPKEY **セクションの変更**
チェックポイント１：POINT1 **セクションの変更**
チェックポイント２：POINT2 **セクションの変更**

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

1.4　メモの記録と録音ファイル確定

（1）
録音停止を行うと標準設定では、登録画面が表示されますので、［コメント］欄にメモを残します。

【メモ指定例】
プロジェクト：お客様名
コメント：メモ
※保存不要時間以上の録音時間が必要です。
※保存方法が「自動登録」の場合は表示されません。
※不要の場合はそのまま［閉じる］を押下してください。

（2）
コメント入力が終了しましたら、［保存］ボタンを押下します。

（3）
「ポストしました」メッセージが表示されれば、ファイル登録 OK です。

※通話ごとのメモ入力が必要ない場合は、設定画面にて「自動登録」を指定してください。

【補足】

保存方法の変更は、第五章基本動作設定を参照ください。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

1.5　自動録音

（１）

自動録音モードでは、通話の音量を検出し自動的に録音開始します。

一定時間の無音を検出しますと、自動的に録音停止します。（無音時間設定）

このため、録音ボリュームと、無音時間、保存不要時間の設定にご注意いただきます。

（２）

設定画面を起動し、下記ポイントで設定してください。

・録音契機を「自動録音」にします。

・保存不要時間を１０から２０秒程度とします。(無音時間より小さくしてしまいますと、不要なファイルが大量に保存されてしまう場合があります。

・無音時間を５から１０秒程度に設定します。

※詳細は第五章基本動作設定及び、リトリーバー取扱説明書の 3.6 項を参照ください。

（３）

設定画面の［変更］ボタンを押下し、受話器をとると録音開始、受話器を置くと、無音時間に設定した時間で録音停止することを確認します。

※　録音されたファイルを再生してみて、音が極端に小さいなどの場合は、ボリュームの設定で改善されますのでお試しください。

※　常に音が入ってしまうヘッドセットなどをご利用の場合は、自動録音できません。

※　標準の USB デバイス以外をご利用の場合は、コントロールパネルのサウンド設定にてマイクのボリューム調整を行なっていただく必要があります。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

【自動録音に関する補足】

■自動録音されない場合

左記の画面も出ない場合は、下記をご確認ください。

《共通》

(1) 自動録音になっていない

《標準の USB デバイスをご利用の場合》

(1) 設定画面の「録音デバイス」に「Converger」と設定されていない。

(2) USB デバイスが正しく接続されていない

(3) 設定画面の受話ボリューム、送話ボリュームが小さすぎる。

《上記以外のデバイスをご利用の場合》

(1) マイク端子に録音アダプターからのケーブルが接続されていない。

(2) 設定画面の「録音デバイス」が正しく設定されていない。

(3) マイク音量が小さすぎる。

■録音ファイルが保存されない場合

設定画面の「保存不要時間」以上の通話を行ってください。

■自動録音停止しない場合

録音中の画面が表示されたままとなる場合、下記をご確認ください。

(1) 設定画面の受話ボリューム、送話ボリュームが大きすぎる可能性があるので、小さくしてみてください。

(2) ヘッドセットなど常に音がアダプターに伝わってしまう場合は、自動録音できません。

(3) 周囲の音が大きい場合は、常に音を検出している状態になるので、自動録音はできません。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

■すぐに自動的に録音停止してしまう場合

無音時間が短すぎる可能性がありますので、長めに取ってください。この場合、通話が終了しても指定時間録音が停止しませんので、次の通話が始まってしまった場合、ファイルが繋がってしまいます。

設定の変更は、第五章基本動作設定を参照ください。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

第二章　管理ツール使用方法（録音再生方法）

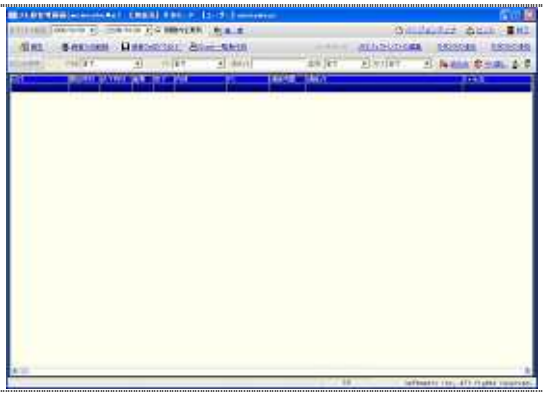
2.1　管理ツールの起動から再生と終了

2.1.1 起動

管理ツールの起動は次のように操作します。

（1）
デスクトップの「メモ録管理ツール」をダブルクリックします。

（2）
ログイン画面が表示されますので、［ログイン］ボタンを押下します。
※　「anonymous」は初期設定アカウントです。その他ユーザー登録している場合は、この限りではありません。
※　FTP 登録モードを指定している場合のみ指定可能です。



（3）
管理ツールメイン画面が表示されます。

初期表示は画面がクリアされています。

（4）
画面左上の［表示日付範囲］に検索したい日付を選択します。
当日のものを表示したい場合は、同一の日付を入力してください。

（5）
画面上の［検索］ボタンを押下します。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

（6）

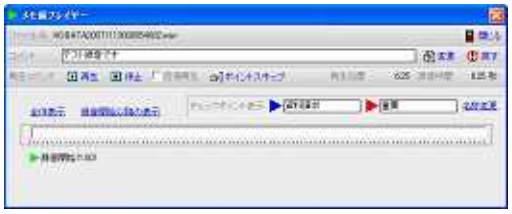
目的の録音ファイルが表示されれば検索 OK です。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

2.1.2　再生操作

（1）
管理ツールメイン画面で、再生したい録音ファイルをダブルクリックします。

※再生したい行を画面上で複数行選択し、［再生］ボタンを押下することもできます
※［完了］［重要］欄をクリックしますと再生しません。これは、マークをつける操作になります。



（2）
再生画面が開き、自動的にファイル再生します。
最初は録音開始した時点からの再生となります。

【ヒント】

(1)［全体表示］をクリックすると、過去録音分（5 分前）部分が再生されます。

(2)途中から再生したい場合は、一旦［停止］し、メモリをあわせてから［再生］ボタンを押下してください。

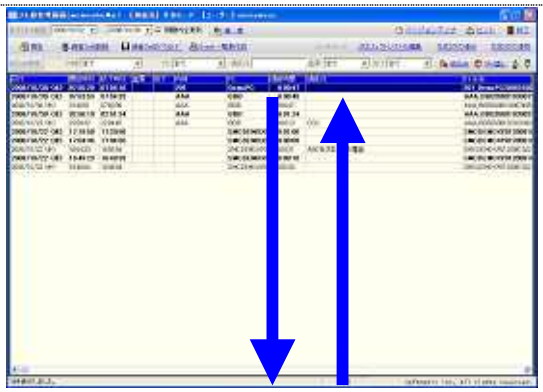
(3)一度再生を行なうと検索画面の対象レコードの文字の太さが太字から細字に切り替わり、再生が行なわれたことをあらわします。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

2.1.3　ソート

（1）
管理ツールメイン画面で、ソートボタンをクリックします。
指が上向きのボタンが、新しいものが上の表示（日付・時刻の降順）となります。
指が下向きのボタンが、新しいものが下の表示（日付・時刻の昇順）となります。

絞込検索を行なった後もソートが可能です。



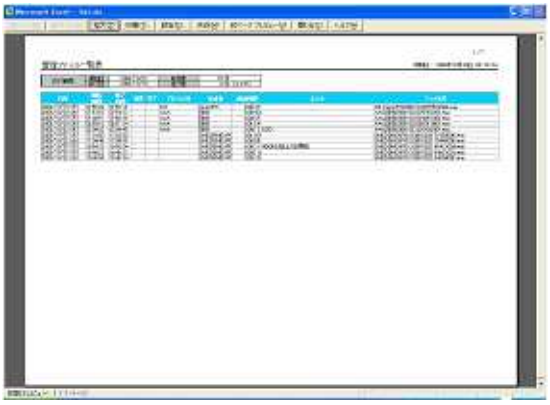
（2）
表示順位が上下入れ替わり、再生対象のレコードを探し出しやすくなります。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

2.1.4　一覧表出力

（1）
管理ツールメイン画面で、検索や絞込みを行なった後、一覧出力したい状態になったときは［Excel 一覧表作成］ボタンをクリックします。

※Excel 一覧表にしたいレコードのみ画面上で選択することも可能です。



（2）
画面表示されている録音情報が Excel のプレビュー画面に表示されますので、［閉じる］ボタンを押下してください。

※この状態で印刷を行なっていただいても問題ありません。

（3）
Excel ファイルの保存先が表示されます。

［マイドキュメント］－［Softmatic］－［Memoroku］－［List］の下に保存されます。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

2.1.5　通話メモ記録

（1）

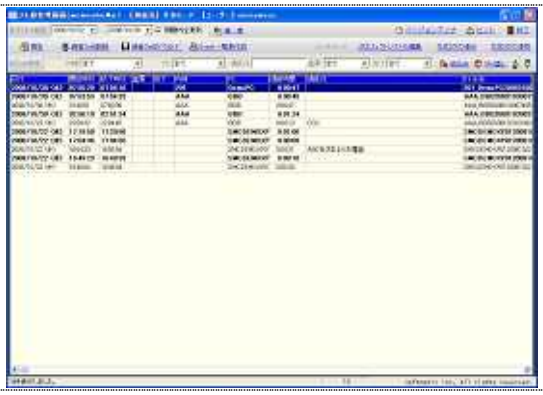
再生画面の「コメント」欄に通話メモを記録し、再生画面を閉じると、通話メモが反映されます。

。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

2.1.6　終了

管理ツールの終了は次のように操作します。



（1）
管理ツールの［閉じる］ボタンを押下して、終了してください。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

2.2　クライアントでの再生方法

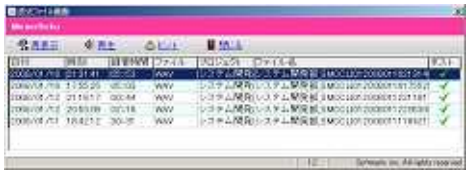
2.1 項では、管理ツールでの再生方法を記しましたが、クライアントソフトでも再生可能です。クライアントが複数存在する場合は、録音ファイルを一箇所（サーバー）に蓄積すると思いますので、この場合は、2.1 項の管理ツールからの再生が便利です。クライアントソフトでは、最近の５録音分のみ再生可能です。

2.2.1 起動

クライアントからの再生画面起動は次のように操作します。

（1）
画面右下のアイコントレーのメモ録アイコンを右クリックします。

（2）
メニュー画面が表示されますので、[直近ファイル画面の表示] ボタンを押下します。



（3）
一覧画面が表示されますので、リストからファイルをクリックして選択します。

※上から新しい順になります。一番上が一番新しい録音ファイルです。

（4）
[再生] ボタンを押下することで、再生画面が表示されます。2.1.2（2）と同じ画面操作となります。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

第三章　アプリケーションの起動と終了

3.1　起動

パソコンの電源を ON しますと、Windows が起動され、同時に自動的に起動されます。録音開始停止手順に従って、録音操作を行ってください。

3.2　終了

パソコンを通常どおりシャットダウンしてください。同時に自動的に終了します。

3.3　備考

アプリケーション起動のショートカットが［スタートアップ］に登録されています。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

第四章　録音ファイルのメール送信

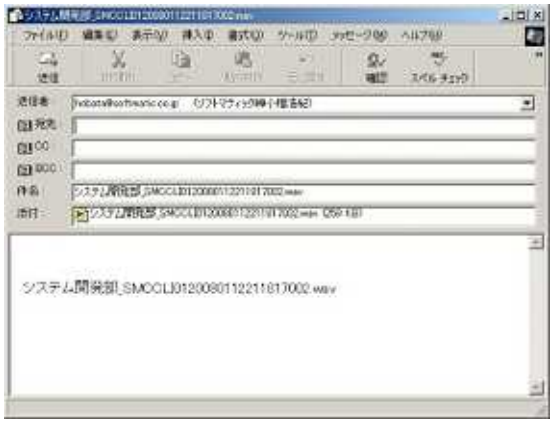
離れた場所に録音ファイルを送信する操作です。離れた場所では専用の再生ソフトが使えませんので、Windows 標準の再生ソフトが自動的に割り当てられます。過去録音機能により 5 分前から録音されている録音ファイルを再生する場合は、聞きたいところまでスライダーを操作して先に進めた状態で再生することで、聞き出すことができます。

4.1　メール送信方法

メール送信は再生画面から操作します。

（1）
再生画面の［メール送信］ボタンを押下します。

（2）
エクスプローラが開き、対象の録音ファイルが表示されますので、対象のファイルを右クリックし、［送る］→［メール受信者］の順で左クリックします。



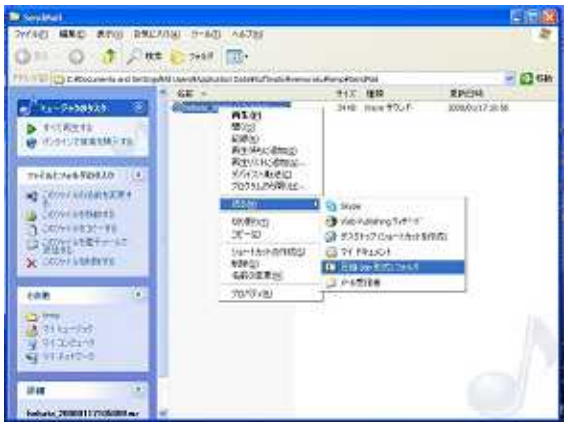
（3）
パソコンで使われているメール送信画面が表示されますので、通常どおりメールの操作を行います。

※OutLook、OutLookExpress などの MAPI 対応メールソフトを使用されていることが条件です。

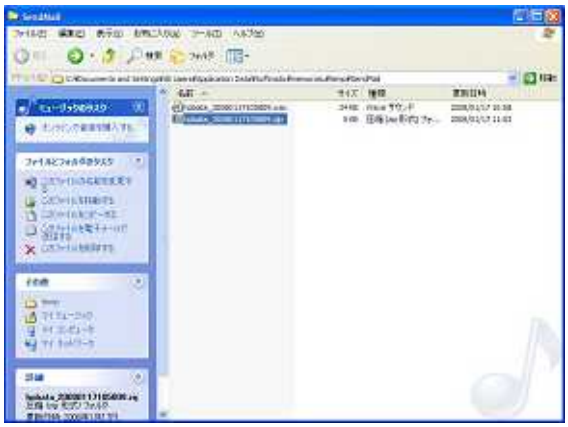
COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

4.2　パスワードをかける方法

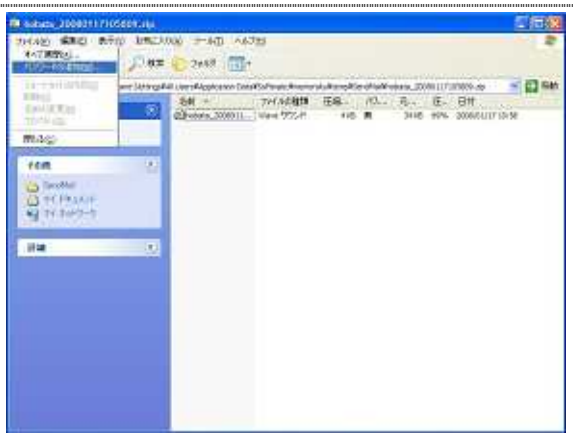
送信する録音ファイルにパスワードをかける操作です。
但し、WindowsXP 標準のパスワード設定可能な ZIP 圧縮となります。その他のパスワード施工アプリでも応用可能です。



（1）
再生画面より［メール送信］を押下していただいたメール送信の為のエクスプローラ画面で、対象の録音ファイルを右クリック→［送る］→［圧縮（ZIP 形式）フォルダ］を選択します。



（2）
ZIP 形式のファイルが作成されますので、ZIP 形式ファイルをダブルクリックします。



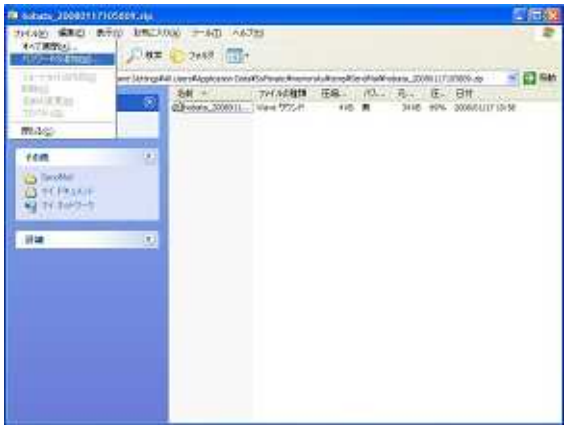
（3）
圧縮された録音ファイルが表示されますので、［ファイル］メニューから、［パスワードの追加］を選択します。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

（4）

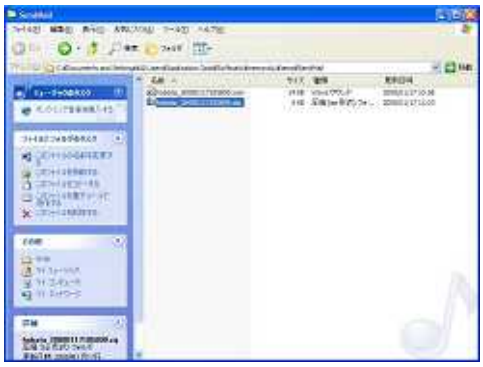
パスワード指定画面が表示されますので、パスワードを指定します。

※ファイルを開くときに必要です。パスワード紛失にはお気をつけ下さい。



（5）

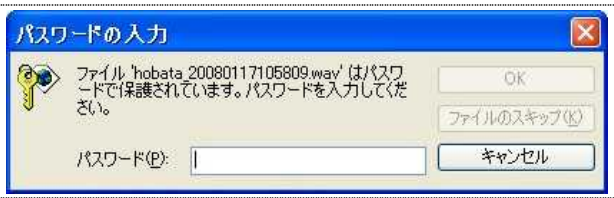
エクスプローラの［戻る］ボタンで、もとの録音ファイルと ZIP ファイルが表示されているエクスプローラ画面に戻ります。



（6）

パスワードがかけられた ZIP ファイルを 4.1（2）の手順同様、右クリックし［送る］→［メール受信者］と左クリックで選択し、メールを送信してください。

※別な手段で、受信者にパスワードをお知らせください。



【備考】

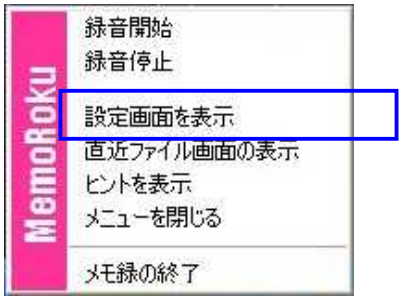
メールの受信者が ZIP ファイルを開き、録音ファイルを再生しようとした場合、左の画面が出てきますので、パスワード入力してください。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

第五章　基本動作設定

メモ録使用上、主に変更する項目は設定画面より変更ができます。それ以外の詳細項目につきましては、初期化ファイルの変更を行わなくてはなりません。初期化ファイルを直接編集する場合には、一度メモ録クライアントを終了させてから初期化ファイルを編集してください。

（1）
画面右下のアイコントレーのメモ録アイコンを右クリックします。



（2）
メニュー画面が表示されますので、［直近ファイル画面の表示］ボタンを押下します。

（3）
設定画面が表示されますので、目的の動作設定を行い、必ず**［変更］ボタンを押下して**保存してください。
項目の説明は次ページに記載します。

※　さらに詳細な変更につきましては、初期化ファイル（Memoroku.ini）ファイルを変更していただく必要があります。詳しくは、「メモ録 ini ファイル説明書」を参照下さい。
※　設定を確実に反映するためには PC を再起動してください。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

項目	設定内容
録音契機	［自動録音］ 通話検出機能（音圧検知）による自動録音機能です。着信音が大きい、周囲の音が大きい、受話器の感度が高すぎるなど環境により利用できない場合があります。また、通話中に録音ファイルの分割、通話と通話の感覚が短い場合など同じファイルに保存されてしまうなど、思わぬ動作をしてしまう場合があります。 ［手動録音］（標準設定） Alt+F9 にて録音開始、Alt+F12 にて録音停止を行います。
保存不要時間	自動録音を指定した場合、不用意にファイルを保存しないよう、指定時間未満の録音ファイルは登録しません。
無音時間	自動録音の際、停止する条件となる無音時間を秒で指定します。
保存方法	［自動登録］ 録音停止時に、録音ファイルを保存先に自動登録する設定です。録音ファイルに任意の文字を付けることができません。（管理ツールで後からメモ付けすることができます。 ［手動登録］（標準設定） 録音停止と同時に、メモ入力用の登録が表示されます。
経緯録音 （過去録音）	［なし］（標準設定） 録音開始ボタンを押した時点より保存します。 ［1 分、3 分、5 分］ 録音開始ボタンを押した時点より、何分さかのぼって保存するかを指定します。
録音デバイス	［Converger］（標準 USB デバイス） PC 標準オーディオを選択することもできます。標準 USB デバイス以外の USB オーディオデバイスを使用する場合、この画面では正しく設定できません。詳しくはお問合せください。
メインボリューム 送話ボリューム 受話ボリューム	標準 USB デバイスを使用したときのみ有効なボリューム調整です。録音ファイルを再生してみながらボリューム調整してください。自動録音の音圧検知機能にも影響しますので、自動録音が開始されないなどの場合はこの値を変更してみてください。 設定値は０－７で、７が最大です。メインボリュームは、送話・受話ともにベース調整します。送話・受話はそれぞれ単独で調整可能です。
プロジェクト （担当部署）	録音ファイルにメモ付けする大分類（カテゴリ）を指定することができます。 管理ツールにて検索する際に便利な情報です。 プロジェクトリストをあらかじめ作成し、録音停止時に表示されるメモ入力画面（登録画面）にて都度、選択形式で入力することもできます。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

端末名 （PC）	録音ファイルにメモ付けされる PC 名を指定することができます。PC 名は使用者名などを登録しておくことも可能です。 管理ツールにて検索する際に便利な情報です。
サーバー（FTP）	FTP サーバー登録を行う場合に使用する欄です。 標準ではこの設定は必要ありません。
通話検出機能	 一定の音が検出された際、通話録音を促す為に、パソコン右下にメッセージが表示されます。自動録音機能を利用するかしないかの判断に利用可能です。 ※自動録音モードを選択した場合など、この画面を表示したくない場合は以下のプログラムの名称を変更してください。 （例） C:¥Progrem files¥Softmatic¥Memoroku¥ CallDetection.exe→CallDetection.ex_
モニタリング機能	オプションのモニタリング機能を利用する場合、「利用する」に指定します。
サーバーIP	モニタリングサーバーの IP アドレスを指定します。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.

【開発元】
ソフトマティック株式会社
〒105-0014　東京都港区芝 3−14−6
TEL:03-5419-2567　FAX:03-5419-0996
URL:http://www.softmatic.co.jp/
Mail:info@softmatic.co.jp

本マニュアルに掲載されているシステム名称および製品名称、サービス名称は一般にその開発元、提供元の商標、もしくは登録商標です。

COPYRIGHT(C) Softmatic,Inc. All Rights Reserved.